

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

認知症の人に対する安全で効果的な看護手法の開発

研究分担者 深堀 浩樹 慶應義塾大学看護医療学部 老年看護学分野 教授

研究要旨 認知症の人に対して安全で効果的な看護・医療・ケアを提供する上では、身体拘束の最小化の方法を検討することが必要である。本研究では、安全で効果的な看護手法の開発の一助として、①身体拘束の是非が争われた裁判例の分析、②身体拘束に関する判例に関する医学論文の検討、③認知症の専門病棟からの退院を促進する手法についての文献検討の3つの活動に取り組み、これらを統合することで、様々な場面における身体拘束の最小化の方法を検討することを目的とした。①の分析からは、質的内容分析により患者側が勝訴した裁判例と医療施設側が勝訴した裁判例における双方の主張の違いの理解を促進する概念が得られた。

A. 研究目的

認知症の人に対する安全で効果的な看護・医療・ケアを提供する上では、様々な場において身体拘束の最小化の方法を検討することが必要である。本研究では、安全で効果的な看護手法の開発の一助として、①身体拘束の是非が争われた裁判例の分析、②身体拘束に関する判例に関する医学論文の検討、③認知症の専門病棟からの退院を促進する手法についての文献検討の3つの活動に取り組み、これらを統合することで、様々な場面における身体拘束の最小化の方法を検討することを目的とした。

B. 研究方法

1) 研究チームの構成について

2020年度に引き続き、看護学・医学・法学の研究者からなる学際的研究チームを構築している。研究チームのメンバーは、分担研究者の深堀浩樹（慶應義塾大学 看護医療学部 老年看護学分野・教授）のほか、小川朝生（国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野・センター長）、松原孝明氏（大東文化大学 法学部法律学科・教授）、辻麻由美氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 看護実践科学分野（老年看護学）・助教）、那須佳津美氏（安田女子大学 看護学部・助教）慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員）金井直子氏（慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員）である。なお、金井氏は老人看護専門看護師

である。

2) 身体拘束の是非が争点となった裁判例の分析

2019年度に法情報総合データベースであるDI-law.comを用いて、収集した身体拘束について争われた裁判例（精神科を除く）についての質的内容分析を行った。2020年度までに、医学・看護学領域の裁判例についての先行研究の検討と研究チームでの協議により開発していた質的内容分析を行うための分析枠組みを修正しつつ用いた。データ管理には、質的データ分析ソフト NVivo11 を用いた。

3) 身体拘束に関係した判例に関する医学論文の検討

身体拘束に係わる判例について検討した医学論文について文献検討を継続している。2021年度までに医学中央雑誌により、身体拘束（統制語/身体抑制）、訴訟（統制語/裁判）、判例といったキーワードを用いて検索を行い収集した文献を対象としている。取り込み基準は、高齢者を対象とした文献や、医療・福祉機関で起こった身体拘束に関わる訴訟について解析した文献であり、分析対象となった研究論文について、判例情報データのソース情報や、判例に関しての解析視点について分析を継続し、2)の分析に活用した。さらに、身体拘束に対して医療従事者が感じる葛藤に着目することが、身体拘束の最小化に有益と考えられたため、身体拘束に対して看護師が感じる葛藤についての文献収集も実施した。

4) 認知症の専門病棟からの退院を促進する

手法についての文献検討

認知症の行動・心理症状のために身体拘束を受けやすい認知症の専門病棟に入院する認知症の人の早期の退院を促進することに帰する文献検討を2021年度から引き続いて実施し、認知症の行動・心理症状のために認知症の専門病棟に入院する認知症の人の退院を促進する手法についてのスコوپングレビュー論文を執筆している。MEDLINE, CINAHL, Cochrane Library, PsycINFO のデータベースを用いた検索と PRISMA ガイドラインに沿った検討・論文執筆は既に終了しており、論文執筆をすすめた。

5) その他の関連研究

認知症の人に対する安全で効果的な看護・医療・ケア提供を検討するために、認知症の人や高齢者に関する看護・ケアに関するその他の関連研究を実施した。

(倫理面への配慮)

上記2)～4)の研究内容は、裁判の判例、判例や退院促進の手法に関する学術論文など既存の公表されている資料を文政対象としている。そのため「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の適用対象とならない。

C. 研究結果

1) 研究チームによる研究活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、メールやオンライン会議による協議を複数回実施した。2022年3月にはオンライン会議で2020年度の総括を行い、分析内容を共有し、論文執筆方針について協議した。

2) 身体拘束の是非が争点となった裁判例の分析

2020年度までに収集された身体拘束の違法性が争点となった裁判例を分析対象とした。

裁判例を、①身体拘束をすべきと家族が主張したもの、②身体拘束をすべきでなかったと家族が主張したものに分類した。研究班での協議の結果、家族の主張・意向により患者に対して有害な可能性がある身体拘束が実施される危険性への対処に有益であることから、①身体拘束をすべきと家族が主張した裁判例を分析することとした。各裁判例の中で患者・家族の主張、病院・施設の主張、裁判所の判断に関する記述を抽出した後に相違性や共通性

によって分析して概念化を進めた。現時点でまだ分析途中ではあるが、患者・家族の主張、病院・施設の主張、裁判所の判断についての概念が抽出され、裁判例間での比較を行うための表を作成した。

3) 身体拘束に関係した判例に関する医学論文の検討

2020年度までに検索して分析していた172件の論文を、2)の分析結果の解釈や論文執筆の際の背景の理解に活用した。身体拘束に対して看護師が感じる葛藤についての80件程度の文献を収集した。

4) 認知症の専門病棟からの退院を促進する手法についての文献検討

2020年度までにデータベースから抽出された3000件ほどの文献の質の評価を行い4つの論文を選定していた。この結果に基づいて論文執筆を終了させ、現在国際誌への投稿中である。

D. 考察

1) 研究チームの構築

2020年度より引き続き、看護学・医学・法学の研究者・高齢者施設での高度看護実践者からなる学際的研究チームにより、多様な場における安全で効果的な看護・医療・ケアの提供方法について検討できる体制が維持されている。

2) 身体拘束の是非が争点となった裁判例のデータ収集

収集された裁判例のうち、身体拘束をすべきと家族が主張したものに限定して分析を行ったことにより分析が促進され、家族の主張・意向により患者に対して有害な可能性がある身体拘束が実施される危険性への対処に有益な結果が得られつつある。抽出された概念とそれらの概念を裁判例ごとに比較するための表の作成により、患者側が勝訴した裁判例と医療施設側が勝訴した裁判例における双方の主張の違いの理解が促進されることが期待される。

3) 身体拘束に関する判例に関する医学論文の検討

過去の身体拘束の判例を分析した医学論文の検討結果は、2)の分析・論文執筆に活用されることが期待できる。また、身体拘束に対して医療従事者が感じる葛藤についての論文は、身体拘束をすべきと家族が主張した裁判例の内容の理解に活用されることが期待され

る。

- 4) 認知症の専門病棟からの退院を促進する手法についての文献検討
現在論文執筆を終え、国際誌への投稿中であり、結果の公表が期待される。

E. 結論

看護学・医学・法学の研究者・高齢者施設での高度看護実践者からなる学際的研究チームにより、多様な場における安全で効果的な看護・医療・ケアの提供方法について検討した。身体拘束の是非が争点となった裁判例のうち、身体拘束をすべきと家族が主張したものに限定して分析を行ったことにより、家族の主張・意向により患者に対して有害な可能性がある身体拘束が実施される危険性への対処に有益な結果が得られることが期待される。

身体拘束に関する判例に関する医学論文・身体拘束に対して医療従事者が感じる葛藤に関する論文・認知症の専門病棟からの退院を促進する手法についての論文についての文献検討結果は、認知症の人に対する安全で効果的な看護手法の開発への活用が期待される。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表（英語論文）

1. Fukui, S., Fukahori, H., et al. (2021). Provision and related factors of end-of-life care in elderly housing with care services in collaboration with home-visiting nurse agencies: a nationwide survey. *BMC Palliat Care*, 20(1), 151. <https://doi.org/10.1186/s12904-021-00847-7>
2. Morita, K., Fukahori, H., et al. (2021). Outcomes of a financial incentive scheme for dementia care by dementia specialist teams in acute-care hospitals: A difference-in-differences analysis of a nationwide retrospective cohort study in Japan. *Int J Geriatr Psychiatry*, 36(9), 1386-1397. <https://doi.org/10.1002/gps.5537>
3. Nasu, K., Fukahori, H., et al. (2021). Long-term care nurses' perceptions of a good death for people with dementia: A qualitative descriptive study. *Int J Older People Nurs*, e12443. <https://doi.org/10.1111/opn.12443>
4. Nishikawa, Y., Fukahori, H., et al. (2021). Cochrane corner: advance care planning for adults with heart failure. *Heart*, 107(8), 609-611. <https://doi.org/10.1136/heartjnl-2020-318458>
5. Shorey, S., Fukahori, H., et al. (2022). Salutogenesis and COVID-19 pandemic impacting nursing education across SEANERN affiliated universities: A multi-national study. *Nurse Educ Today*, 110, 105277. <https://doi.org/10.1016/j.nedt.2022.105277>
6. Takahashi, Z., Fukahori, H., et al. (2021). Defining a good death for people with dementia: A scoping review. *Jpn J Nurs Sci*, 18(2), e12402. <https://doi.org/10.1111/jjns.12402>
7. Yamagata, C., Fukahori, H., et al. (2021). Preliminary Effect and Acceptability of an Intervention to Improve End-of-Life Care in Long-Term-Care Facilities: A Feasibility Study. *Healthcare (Basel)*, 9(9). <https://doi.org/10.3390/healthcare9091194>
8. Yamakawa, M., Fukahori, H., et al. (2021). Sustainable nurse-led care for people with dementia including mild cognitive impairment and their family in an ambulatory care setting: A scoping review. *Int J Nurs Pract*, e13008. <https://doi.org/10.1111/ijn.13008>
9. Yamamoto-Kon, A., Fukahori, H., et al. (2021). Validity and reliability of Japanese version of the pressure ulcer knowledge assessment tool. *J Tissue Viability*, 30(4), 566-570. <https://doi.org/10.1016/j.jtv.2021.08.002>

10. Yoshinaga, N., Fukahori, H., et al. (2022). Initial impact of the COVID-19 pandemic on time Japanese nursing faculty devote to research: Cross-sectional survey. *Jpn J Nurs Sci*, 19(1), e12454. <https://doi.org/10.1111/jjns.12454>

論文発表（日本語論文）

1. 寺岡貴子., 深堀浩樹., 他. (2021). 日本の認知症高齢者を在宅介護する家族介護者の体験のメタ統合 [原著論文]. *日本精神保健看護学会誌*, 30(2), 39-49. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/VC07360005>
2. 白川翔., 深堀浩樹., 他. (2021). 術前患者の不安軽減に関する質的研究を活用した教育的介入の影響 [原著論文]. *共済医報*, 70(4), 349-354. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/W111500008>

学会発表

1. 青山真帆, 深堀浩樹., 他. (2021). 認知症患者の遺族の死別後のうつ・複雑性悲嘆と関連要因 [会議録]. *Palliative Care Research*, 16(Suppl.), S396. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2021263980>
2. 長尾祥子., & 深堀浩樹. (2021). 一施設における看護師の自己教育力と役割、院内研修受講の有無との関連 [会議録]. *共済医報*, 70(Suppl.), 59. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2022065488>
3. 那須佳津美., 深堀浩樹., 他. (2021). 認知症の人の死亡前1か月の救急搬送と救急受診の要因：遺族へのWeb調査の二次解析., [学会発表] 日本家族看護学会第28回学術集会.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。